

◆ 子宮体癌における傍大動脈傍リンパ節郭清のためのロボットデュアルドッキング手術：実行可能性に関する前向き研究

Robotic dual-docking surgery for para-aortic lymphadenectomy in endometrial cancer : a prospective feasibility study.
Yanazume S et al

Int J Clin Oncol 30 : 358-370, 2025

背景 この研究は、子宮体癌に対するロボット支援手術(RAS)と従来の腹腔鏡手術(CLS)の長期的な結果を比較したランダム化比較試験である。子宮体癌の治療において、近年、低侵襲手術の選択肢としてRASが注目されているが、その長期的な有効性や安全性についての十分なエビデンスは限られている。本研究では、これら2つの手術方法が患者の生存率や合併症、手術の成功率にどのような影響を与えるのかを評価することを目的とした。

方法 研究では、子宮体癌患者を対象にRAS群とCLS群にランダムに割り当て、手術の転帰について長期間にわたり追跡調査を実施した。主要な評価項目として、開腹手術への移行率、術中および術後の合併症の発生率、再発率、生存率などを分析した。さらに、手術時間や出血量、入院期間などの周術期の指標も比較した。

結果 研究の結果、RASはCLSと比較して手術中の出血量が少なく、開腹手術への移行率が低いことが確認さ

れた。これは、ロボット支援技術により精密な操作が可能になったことが関係していると考えられた。しかし、手術時間に関してはRASのほうがやや長くなる傾向がみられた。合併症の発生率については両群で大きな差を認めず、術後の回復期間もほぼ同等であった。さらに、長期的な生存率や再発率においても、RASとCLSの間に有意差は認められなかった。

結論 本研究の結果から、ロボット支援手術は従来の腹腔鏡手術と同等の安全性と有効性をもちながら、特定の面での利点(出血量の減少、開腹手術への移行リスクの低減など)があることが確認された。ただし、RASはCLSに比べて手術時間が長くなる可能性があるため、手術コストや医療資源の利用効率などを考慮する必要がある。また、さらなる長期的な追跡調査や、より多くの患者を対象とした研究が必要であると考えられる。

(大阪公立大学大学院医学研究科女性病態医学 山内 真 抄)

◆ 初産婦における硬膜外麻酔の骨盤底に対する影響：経会陰超音波による後方視的研究

Epidural anesthesia and pelvic floor outcomes in primiparas : a retrospective transperineal ultrasound study.
Lyu X et al

Int Urogynecol J 36 : 163-171, 2025

背景 近年、無痛または和痛分娩が普及してきており、分娩時の痛みによるストレスを軽減させる傾向にある。過去の報告では、無痛分娩により分娩第2期遷延の可能性があり、骨盤底筋や陰部神経の損傷の可能性が高まる可能性が指摘されている一方で、痛みを伴う通常分娩と比較して無痛分娩は骨盤底筋を弛緩させることで骨盤底への間接的または直接的な外傷を軽減し、骨盤底外傷に関連する症状の発症を予防する可能性も指摘されている。

目的 この研究では、経会陰超音波を用いて、痛みを伴う通常分娩と無痛分娩をした初産婦の骨盤内臓器の位置を評価し、無痛分娩が骨盤底機能に及ぼす影響を評価した。

方法 2022年1月～2023年3月に経陰分娩した初産婦512人を対象に、産後42日目に経会陰超音波検査を実施した。この研究には、通常分娩の女性138人と無痛分娩の女性375人が含まれていた。測定項目は、尿道傾

斜角(UTA)、安静時膀胱後角(RVA-R)、安静時の膀胱頸部恥骨結合距離(BSD)、バルサルバ時の膀胱後角(RVA-V)、尿道回転角(URA)、膀胱頸部下降距離(BND)、直腸膨大部距離、最大バルサルバ時の挙筋裂孔面積(LHA)を検討した。統計解析はSPSS 26.0を使用して行われた。

結果 年齢、妊娠週数、新生児出生体重、BMI、UTA、RVA-R、RVA-V、URA、およびBNDに関して、通常分娩群と無痛分娩群の間に有意差は認められなかった($p > 0.05$)。無痛分娩群では第2期および分娩総所要時間が有意に長かったものの、膀胱瘤、内尿道口の開大、子宮脱、直腸瘤、およびLHA拡大の発生率に群間で有意差は認められなかった($p > 0.05$)。

結論 経会陰超音波検査では、痛みを伴う通常分娩と無痛分娩の間で初産婦の骨盤底機能障害の発生率に有意差は認められなかった。

(大阪公立大学大学院医学研究科女性生涯医学 羽室明洋 抄)